

《履修上の留意事項》演習を行う際、体調不良を伴う場合は被検者になれないため事前に申告すること。

<履修について>

内部障害理学療法学演習は、一部の演習において受講者をグループに分け、それぞれのグループに担当教員を配置し実施する。グループ分けとそれぞれのグループの講義順は初回の授業までに示す。

《担当者名》 澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 泉唯史 多田菊代

【概要】

内部障害理学療法学で習得した知識をもとに、理学療法評価とリハビリテーションアプローチの基本技術に関して、演習を通じて身につけることを目的とする。理学療法評価については、個々の評価項目の意義や評価項目間の関連性を理解したうえで評価を実施、結果を統合解釈し、介入プログラムの立案ができるようにする。また、リハビリテーションアプローチについては、徒手のアプローチや運動療法を学生相互に実習し、その基本手技や留意点などを学修する。さらに、各疾患に対するペーパーペイシエントを用いたグループワーク形式の演習を行う。

【学修目標】

一般目標

内部障害を構成する疾患・障害の基本的な理学療法評価および理学療法プログラムを作成し、実行できる能力を身につける。

行動目標

1. 背景にある病態踏まえて、必要な理学療法評価を抽出することができる。
2. 得られた評価項目から問題点を整理し、理学療法プログラムを立案できる。
3. 各疾患に応じた基本的な評価・理学療法手技を実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	糖尿病に関する評価と治療手技	・糖尿病の障害構造分析と評価方法、治療手技について学ぶ。	澤田篤史 多田菊代
3 ) 4	症例検討	・糖尿病に関してペーパーペイシエントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史 多田菊代
5 ) 6	循環器疾患に関する評価(1)	・心電図の理解と解釈、血行動態との関連	泉 唯史
7 ) 8	循環器疾患に関する評価(2)	・画像検査(胸部X線写真など)、機能検査(心臓超音波検査検査など)	泉 唯史
9 ) 10	循環器疾患に関する評価(3)	・心肺運動負荷試験のデータ解釈 ・心肺運動負荷試験に基づく運動処方	泉 唯史
11 ) 12	症例検討	・循環器疾患に関してペーパーペイシエントを用いた症例検討演習を行う。	泉 唯史
13 ) 14	呼吸リハビリテーションにおける評価	・バイタルサイン ・各種のフィジカル・エグザミネーション ・評価に伴う身体反応の考察	多田菊代
15 ) 16	呼吸リハビリテーションにおける評価	・呼吸器疾患のフィジカルアセスメント 意義・目的・方法	多田菊代
17	神経筋疾患における呼吸ケア	・神経筋疾患における呼吸ケアとマネジメント	三浦利彦(特別講師)

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
18	の実際	・神経筋疾患における摂食嚥下障害リハビリテーション（理学療法士によるシーティングや呼吸評価、多職種との連携）	多田菊代
19 20	呼吸器疾患に対する理学療法 症例検討	・呼吸器疾患に関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	多田菊代
21 22	乳がんに対する理学療法	・リンパドレナージ、複合的理学療法	澤田篤史
23 24	ターミナルケア 症例検討	・ターミナルケア ・がんに関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史
25 26	総合演習	グループに分かれ、以下の演習を行う。 ・血圧測定 ・呼吸器疾患に対するフィジカルアセスメント ・周術期の早期離床	澤田篤史 泉唯史 多田菊代
27 28	総合演習	グループに分かれ、以下の演習を行う。 ・血圧測定 ・呼吸器疾患に対するフィジカルアセスメント ・周術期の早期離床	澤田篤史 泉唯史 多田菊代
29 30	総合演習	グループに分かれ、以下の演習を行う。 ・血圧測定 ・呼吸器疾患に対するフィジカルアセスメント ・周術期の早期離床	澤田篤史 泉唯史 多田菊代

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

定期試験85% レポート・授業内課題の提出15%

レポートは返却を行う。

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

#### 【教科書】

千住秀明 他 監修 「呼吸理学療法標準手技」 医学書院 2008年

松永篤彦 編 「運動療法エビデンスレビュー -臨床・研究に役立つ評価指標・基準値・介入のエビデンスをこの一冊に凝縮-」 文光堂 2018年

#### 【参考書】

亀田メディカルセンター 編集 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック 第3版」 MEDICAL VIEW 2017年

西田修 監修 「早期リハビリテーションの実践 予後改善のためのアプローチ」 MEDICAL VIEW 2018年

美津島隆 監修 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」 MEDICAL VIEW 2018年

内部障害理学療法学の講義で紹介した参考図書

また、演習の中で内部障害理学療法学の関連分野に関わる参考書を適宜紹介していく。

#### 【備考】

内部障害理学療法学の講義で配布し、使用した講義資料および講義ノートを適宜使用する。

#### 【学修の準備】

1. この演習は、2年生までの解剖学、生理学、運動生理学および内科学などを基盤にして行われた内部障害理学療法学に基づいて行われるものであり、学修の準備としてこれらの授業ノートや参考書・関連図書を毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと（80分）。

2. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

#### 【服装・必要物品】

1. 演習時には実習着で臨むこと。

2. 胸部を聴診する演習や胸部に電極貼付を伴うため、着脱のしやすい服装で臨むこと。

3. メジャー

4. 聴診器

5. その他、講義に必要な物は事前に説明する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を  
実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、泉唯史（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域における実務経験に基づいて、実践的な知識・技術の習得を目指した講義を行う。